

英彦山(福岡)上部に登山者用トイレ建設に向けての活動

太田 勝 (英彦山の環境・トイレを考える協議会)

1. 福岡県における山岳トイレの状況

福岡県には全国的有名な山はない。ただ年間 20 万人が登るといわれる人気の山、福智山(900m) 英彦山 (1200m) 宝満山 (869m) がある。

この千メートル前後の 3 山は、それぞれ修験道の拠点として崇拜され、また異なった山容趣は我われ登山愛好家の自慢の山でもある。

福智山は県北に位置し、特に北九州市、筑豊地区のふるさとの山とも言われており、県内では最も早く 9 合目避難小屋横にバイオトイレが「筑豊山の会」の手によって建設され、管理、清掃などにおいても同会が行っている。ただ今後のメンテナンス、大規模修理など金銭的問題もあることから同トイレは福岡県へ譲渡。現在は県の所有となっている。

太宰府市、筑紫野市の境界に位置する宝満山も福岡市をはじめ都市圏に近く、風雨強き日、積雪深き日も登山者は多く、山頂には宝満宮竈神社上宮があり、これより九重連山、博多湾など 360 度の展望が得られ県内において最も人気の高い山である。

9 合目キャンプセンターには平成 21 年バイオトイレが完成。これ以前のトイレ管理の一切を「西鉄山友会」が行っていたが、同トイレ完成後も同会によって管理、清掃が行われており、清潔なトイレは登山者に喜ばれている。同トイレは西日本鉄道(株)創業百周年記念事業の一環として建設され、この資金一切を西日本鉄道(株)により提供していただいた。

さて、英彦山とはどのような山なのかは下記に記載する「英彦山上部に登山者用トイレ建設を要望する請願(陳情)書」に紹介されている通りで、概要は理解していただけるものと考えられる。

英彦山山頂付近には 10 年程前まで、垂れ流しのトイレがあったが、大分県側からの苦情、さらにトイレ建物の老朽化で危険な状態になったことから、このトイレは閉鎖され現在に至っている。福岡県は英彦山上部にトイレは必要として数年前よりトイレ建設資金として予算を確保。地元自治体の添田町にトイレ建設へ向けた地元での意見調整を願っていた。しかし何度か話し合いの場が持たれたようであるが難行挫折の経緯であったもようである。

2. 英彦山上部にトイレ建設を期待しての当初の動き

平成 23 年 5 月、英彦山の環境悪化を危惧する有志 5 人が彦山花駅に集まり、英彦山上部にトイレが必要ではないか! 出来ないものだろうか! などの意見交換を行ったのが第 1 回で、2 回目以後は地元の方、さらに広く意見を聞くことが重要であることから参加を求めた結果、英彦山神宮、英彦山霊山会、町観光協会、英彦山自治区、県立青年の家、日本山岳会北九州支部、労山県連盟、等等 20 名ほどが出席されるようになった。

この意見交換会では賛否両論多くの意見が出された。特に英彦山神社関係者から英彦山上部は神宮境内の聖域となっており、トイレ建設は容認できないとの発言もあり、前途多難を感じさせるものであった。このような意見の半面、出席者の多くは英彦山上部にトイレは必要とする意見

が大勢を示していた。したがってトイレ建設の実現に向け具体的活動を進める上で主体となる組織が必要になることから会名を「英彦山の環境・トイレを考える連絡協議会」（下記は略称「英彦山のトイレを考える会」とする）として、会長に荒木辰彦氏（福岡県勤労者山岳連盟会長）を選出し、副会長4名、事務局長1名に当面の会活動の核として役割を担って頂くことになった。

3. トイレ建設へ向けた具体的活動の経緯

先ず地元添田町議会への請願。添田町長、英彦山神宮に陳情（下記の請願（陳情）書通り）を提出することにした。ただ請願書提出前に署名活動を行い、同署名を添えて提出してはとの意見が出たものの、署名活動に有する期間が長く掛かることから、この主旨に賛同する団体を募ることとした。請願書提出先へ団体名、会員数など賛同書を添付することで多くの県民の声として受け止めて頂けるものと期待してのことである。

英彦山上部に登山者用トイレ建設を要望する請願(陳情)書

英彦山の自然環境を保全するため、年間20万人以上が登山する英彦山上部に登山者用トイレが必要であるという認識から、トイレを建設して下さいよう請願（陳情）します。

<理由>

福岡、大分県境に登える英彦山は北九州の最高峰で、かつて修験道の拠点として日本三大霊山と称され、山岳宗教のメッカとして名をはせたとされています。そして、平成8年には英彦山宗による修験道の行事が復活され、今日に至っています。

また、英彦山の自然は変化に富み、数多くの名勝史跡有する同山域は昭和25年「耶馬・日田・英彦山国定公園」に指定されています。

英彦山には近年、中高年をはじめ小中高の生徒、職場のグループなど、年間20万人以上が登山や植物、野鳥の観察などを楽しみ、保健、教育、休養などに大きな役割を果たしております。

しかし、登山者の増加に伴い、自然環境の悪化が危惧される状況となっています。

福岡県には登山者が多い人気の山が三ヶ所あり、福智山、英彦山、宝満山がそれにあたります。福智山、宝満山においては山頂直下にバイオトイレが設置され、綺麗なトイレとして利用者に喜ばれています。しかし、英彦山上部にはトイレがなく、排泄物が山中に放置されている現状があり、この対策が急務となっています。

登山口にはトイレが設置されているところもありますが、登山コースによって歩行時間も違い、また、登山者自身の体調や個人差などから、排泄を余儀なくされる場合も少なくありません。これらにより、山麓の水質汚染という深刻な事態をも招きかねません。

英彦山について、専門的な知識を持っているわけではではありません。ただ、英彦山には遠い昔から祖先が歩いた神の山、霊山、歴史の山であるという認識はあります。だからこそ、英彦山の自然環境が汚染されることを、極力くい止めなければならないと強く考えているところです。私たちも自然保護思想の高揚に向けた活動を今後よりいっそう強化していく所存です。

どうか以上のような実情をおくみ取りの上、英彦山上部に登山者用トイレを建設して下さいようお願いします。

平成24年 月 日

英彦山の環境・トイレを考える連絡協議会

上記請願書に添付した賛同団体は41団体にのぼり平成24年2月上記の3者へ提出した。

バイオトイレを設置する上でこの前提となるのはトイレ建設後の管理体制（長期にわたる定期的な整備点検、清掃等）の確立が保障されることが重要で、この作業が滞ることでトイレ利用の意識反応は大きく左右され、トイレ建設したこの意味までも問われることとなる。これは福岡県、添田町、英彦山神宮の3者が最も重視する課題であった。

その後の意見交換会では地元をはじめ周辺からも団体参加があり、これら団体へ先に述べたトイレ管理に関する協力を求めたところ8団体（筑豊山の会、英彦山観光協会（神宮を含む）、県立青年の家、添田町観光ボランティア、日本山岳会北九州支部、田川かたつむり山の会、日本野鳥の会、つくし植物友の会）と2名の個人より申し出があり、管理団体、個人として登録された。特に会事務所を英彦山地区へ移転を希望する筑豊山の会をトイレ完成後の管理主団体としてお願いし、今後もさらに協力団体を募り強化していくことにする。このトイレ管理を行う協力団体名、個人名は管理費用予算書と共に添田町へ提出。英彦山神宮へは協力団体等のみを提出した。

「英彦山のトイレを考える会」の具体的な活動によるものか、その後の意見交換会では神宮宮司の発言として「私個人としては反対するものではない、ただ神宮総代会へこの案件は計って見る必要がある」また「英彦山霊山会も私どもがうんぬんいうことではない」など神宮関係者の思惑の変化がみられ、当初の前途多難の感は多少払拭され、トイレ建設に向け今後に期待できるものとなった。

福岡県はこれらの経緯をふまえ添田町、バイオトイレ業者の同行を求め、トイレ建設場所を特定する調査が行われた。この結果、建設場所を「中岳頂北側広場付近」が最も適切であるとの見解をしめした。

英彦山は北岳、中岳、南岳の三つのピークより成り立っており、中岳が最も高い。この山頂北側広場は登山者の多くが休憩や昼食など憩う所であり、また各登山口からのルートもここで交わるところである。この付近一帯は神宮境内の聖域と言われており「請願書」にある“英彦山上部”とはトイレ建設を推進する側は“中岳山頂付近”とする意味が意中にあったものの意見交換会では禁句となっていた。これは建設現場を中岳山頂付近と明記することで神宮関係者の反感を呼び、活動の前途に困難をきたす事を恐れてのことであった。

しかし、いずれかの時期には建設現場を特定明記、神宮へ要望をしなければならず期は熟したとみた添田町は「英彦山のトイレを考える会」へトイレ建設場所を明記した要望書を英彦山神宮宛に提出して欲しいとの要望があった。

英彦山神宮と地元添田町とは共に協力関係にあるのが、当然ながら時として意見のかみ合いが悪い感がある。町はトイレ建設場所を特定した要望書を神宮へ提出する作業を当会へ振ってきたのである。

当会は早速、英彦山のトイレ建設場所をこの最終段階ではじめて「中岳山頂北側広場付近」と明記することが出来たわけで“英彦山上部”の中味を秘めた当初からの活動であったことから、胸につかえた物をようやく吐き出したような思いであった。

当会役員4名で神宮を訪問、要望書を提出。その後下記の通りの回答を得る。

平成24年11月23日

英彦山環境・トイレを考える連絡協議会
会長 荒木辰彦様

英彦山神宮
宮司 高千穂 秀敏



トイレ建設について回答

標記の件 11月20日に総代会を開催し協議、下記協議結果を踏まえトイレ建設に従事していただきたく、切にお願い申し上げます。

記

1、トイレ建設について

神域として山の尊厳を保たなければならないとの見方もあるが、尊厳を保つにも限度があり、登山または観光でおとずれる人の割合も多く、山が広範囲に汚染されつつある現状は、環境的にも衛生面にもよくないことから、管理上少々不安がありますが、トイレ建設には賛同いたします。

2、トイレ建設場所について

福岡県の報告書によると、建設予定地が休憩所の隣接地となっていますが、この広場は食事を採ったり、登拝者が憩いの時を過ごす場所でもあります。広場の雰囲気考慮し休憩所より離れた場所に設置していただきたい。建設場所については現地立会いの上、決めて戴きたい。

これによりトイレ建設に向けた障害と思われた事案などはほぼ解決したものといえる。

「英彦山のトイレを考える会」の活動は以上のような経緯により現在に至っている。

トイレ完成まで福岡県、添田町、英彦山神宮、当「考える会」では、多少解決して行かなければならない事案もあるが、今後も心ひとつくりしていけるものと考えており、平成25年度完成を期待しているところである。